

平成23年度

「みやぎの志教育」

各管内実践事例集



宮城県教育委員会

平成23年度

## 大河原教育事務所管内の志教育の取組

### I はじめに

今年度、それぞれの学校において各学年の志教育の年間指導計画が作成され、志教育の実践が行われました。その取組について「志教育の実践事例」として冊子にまとめました。

また、「～夢をもち、志を成し遂げた郷土の人々～」を発刊し、郷土の偉人について子どもたちが学び、自分の夢を志に高め、自らの生き方を主体的に探究していってくれることを願っています。

2月15日には、角田中学校区の「志教育事例発表会並びに講演会」が行われ、大勢の皆様にご参加いただきました。

### II 管内の志教育の特色ある実践例

#### 【白石市立福岡小学校の志教育の取組】

活動名「被災地訪問交流学習」 第5学年 総合的な学習の時間（30時間）

##### 志教育の視点 【かかわる】

被災地の現状やそこで生活して復旧・復興へ力強く歩みだそうとしている人の思いに気付くことで、今、自分にできること、人のために役立つという気持ちを育む。

- 東日本大震災を振り返ろう（3時間）
- これから学びたいこと、調べたいことをつかもう（3時間）
- 実際に訪問して、被災地の現状を知ろう（7時間）
- 学んできたことをまとめ、みんなに伝えよう（17時間）



【被災地区の様子】



【被災市内の様子】



【小学校との交流の様子】



【報告会（朝会）】

#### 【蔵王町立遠刈田小学校の志教育の取組】

活動名「偉人の業績等の紹介とわたしの夢」 全学年 朝会、道徳、国語

##### 【偉人の顔写真と名前、業績等の紹介】

朝会を活用し、志教育担当が世界の偉人の業績やエピソードを紹介し、紹介後肖像写真を昇降口中程に掲示した。これまでで4名の偉人を紹介し、自作道徳資料（偉人の伝記）の配布や図書主任が図書室の本紹介コーナーで偉人の伝記を紹介し、各学年は読書指導の一端に活用するなどした。

##### 【「わたしの夢」（児童氏名・顔写真・希望の職業）の掲示】

児童一人一人に自分の将来なりたい職業を書かせ、理由やどのように夢を追いかけるのか等について、自らの思いや願いを記述させ掲示発表した。

##### 【わたしの夢】



【世界の偉人】



## 【 丸森町立耕野小学校の志教育の取組 】

活動名 「耕野の素敵な人」 調査隊 第1・2学年 生活科・学校行事（26時間）

### 志教育の視点 【かかわる】【もとめる】

人と出会い・触れ合い・学び合い・発信することにより、よりよい自分を築く。

#### ■ 出会い 「耕野のすてきな人 調べ隊」（9時間）

- ☆ 耕野地区では、どんな人々が働いているか話し合った。
- ☆ 耕野地区で働く人々への聞き取りを行い、仕事内容や喜び、苦勞等を調べた。

#### ■ 触れ合い 「働く人の気持ち まとめ隊」（5時間）

- ☆ 聞き取ったことを、視点に基づいて作品にまとめた。

#### ■ 学び合い 「仕事について 考え隊」（10時間）

- ☆ 「大人になったらどんな職業に就きたいか」について、じっくり考えた。

#### ■ 発信する 「仕事について伝え隊」（2時間）

- ☆ 「こうやっ子『学び』のフェスティバル」において発表した。
- ☆ 耕野のためにできることを考え実行した。



【駐在所にて】 【町づくりセンターにて】 【石材店にて】 【学びのフェスティバル】

## 【 角田市立金津中学校の志教育の取組 】

活動名 「よもぎ採り」 全校生徒 生徒会行事

### 志教育の視点 【かかわる】【もとめる】【はたす】

- ☆ 生徒たちが自主的に生徒会行事を企画・運営し、よもぎ採りを行うことによって、地域の一員としての自覚を持てるようにする。
- ☆ よもぎ採りの収益金を角田市福祉協議会に届け、福祉活動の一助となることを知って自分たちでできる社会貢献について理解するとともに、奉仕の心を育む。

#### ■ 5月6日 奉仕委員会を開催

- ☆ 生徒会執行部が代表委員会において、よもぎ採りの目的や収益金の活用の仕方について説明を行い、周知及び意欲の向上を図った。

#### ■ 5月10日 生徒集会での呼びかけや学級へのよもぎ採りの目的や方法などの掲示

#### ■ 5月11日 講演会 講師 角田市社会福祉協議会

- ☆ 福祉・ボランティア活動を身近に感じることができ、自分たちのこれまでの活動が社会貢献できていることを知って、よもぎ採りの意欲を高めることができた。

#### ■ 5月12日 よもぎ採り

- ☆ クラスごと地区に分かれ、よもぎを収穫。クラス・個人を収穫量の多さで表彰。
- ☆ 宮城製粉株式会社へ搬入。

#### ■ 6月 収益金を角田市福祉協議会に生徒会執行部が届ける



【よもぎ採り】

平成 23 年度

## 仙台教育事務所管内の志教育の取組

### I はじめに

管内各小・中学校では「志教育」全体計画を作成し、保護者や地域の理解と支援を得ながら、計画的・意図的に志教育を推進しています。

### II 実践例

#### 【志教育推進事業推進地区の取組：利府町】

「町はひとつの学校」の理念のもと、学校や学年を超えて児童生徒の縦と横のつながりを大切にするため、利府高校を頂点とし、利府支援学校並びに町内小・中学校9校の計11校による大異年齢集団「十符っ子ブラザーシップ」を平成16年6月に発足しました。

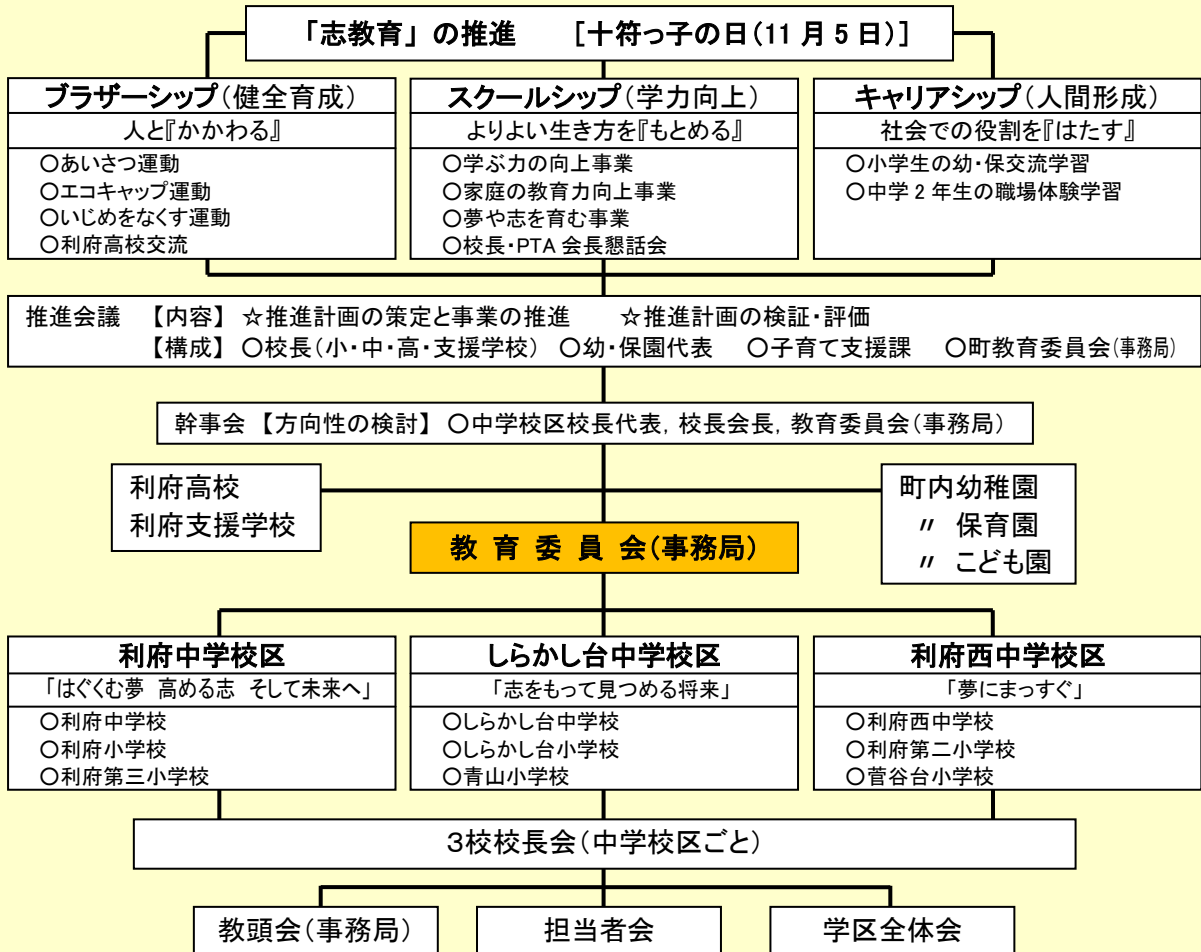
その後、3つのシップによる事業を立ち上げ（スクールシップ〈学力向上〉、ブラザーシップ〈健全育成〉、キャリアシップ〈人間形成〉）、教育委員会が主体となって学校・家庭・地域・行政の連携及び異校種連携による教育を推進しています。

平成23年度はこれまでの取組に加え、11月の第一土曜日を「十符っ子の日」と制定し、「学校・家庭・地域・行政が一体となり、人や社会とのかかわりの中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考え、将来の社会人としてのよりよい生き方を探求する児童・生徒を育成する」ことを目標に掲げ「志教育」を推進しています。

また、その取組の中で町内3中学校区ごとに小・中連携の組織を作り（中学校1校、小学校2校）、校区としての志教育全体計画を策定し独自のテーマのもとに活動を行っています。

平成23年11月5日に中学校区ごと実施した第一回「十符っ子の日」では、高校生による「ブラザーシップ活動紹介」、小・中学生による「夢と志の意見発表」、中学校合唱部や吹奏楽部の演奏披露などがありました。

#### 《主な取組・組織図》



## 《十符っ子ブラザーシップの主な活動》

### 心を一つに ～目標を共有し合う児童生徒～



毎年5月、町内小・中学校、利府支援学校の代表児童生徒が利府高校の生徒会総会に出席し、その年の目標を共有し合います。

### あいさつ運動 ～心の架け橋～



毎月1日と15日に、各学校では小・中学生と一緒に「あいさつ運動」を行っています。

### 大異年齢集団で 取り組む様々な活動



これまでに、「いじめをなくすアピール活動」や「エコキャップ運動」など充実した活動を行っています。

### 広がる活動の輪 利府高校生とのスポーツ交流



秋には、利府高校の運動部と小学5・6年生との「スポーツ交流授業」が行われます。

## 【地域と学校が連携した取組: 富谷町】

これまで「学びのまち富谷」をスローガンに、地域と学校が一体となった数々の取組を進めてきました。平成20年6月からは連携をより確かにするため、「地域と学校をつなぐ取組」としてスタートしています。

地域と学校との協働の推進役として公民館を学校支援地域本部とし、地域住民が中学校区ごとに活動テーマに沿いながら学校の教育活動に参加・支援することで、子どもたちの豊かな学びが実現し、生きる力が育っています。

また、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、子どもたちの可能性を伸ばす機会として、平成19年から「とみや子どもまつり」を開催しています。当日のステージ発表では子どもたちの特技の披露や合唱、勇気をくれた恩師の言葉や人生を変えた恩人の一言などの発表などを行い、ブース事業では子どもたちが企画運営した事業などを実施し、子どもたちの成長と輝きを実感できる内容となっています。

### 地域伝統文化の継承



町に伝わる県民族無形文化財「富谷田植踊り」を教わっています。伝統文化を学ぶことで地域の一人としての自覚が育っています。

### 授業(家庭科)への支援



地域の方がミシン指導の支援を行いました。生徒たちは使い方や縫い方を教わり、「先輩の心と技」を学びながら交流を図りました。

### 恩師・恩人へのメッセージ



代表の児童生徒が、自分が成長するきっかけとなった先生や友人、地域の人などからの「ひとこと」と、その「エピソード」を発表しました。

### ブース事業: チャレンジランキング



中学生がお世話役となり、子どもから大人まで多くの来場者が豆つまみや「と・み・や」の字さがしなどに挑戦しました。

## 【学校行事、総合的な学習の時間を活用した取組】

### 《立志発表会: 塩竈市立第二中学校》

中学2年生が元服式にちなんだ行事を体験しました。この行事は大人に飛躍する気持ちと保護者への感謝の気持ちを高めるとともに、保護者や地域の方々に成長した生徒の姿を実感していただくことをねらいとしています。

当日は2年生全員が将来の目標や目指す姿について「夢発表」を行うとともに、1、3年生からの励ましの言葉もありました。

この発表会に向けて準備を進めていく中で、将来に向けての自覚が高まるとともに、全員で会を成功させようとする意識の高まりが大いに感じられました。

### 2年生全員による誓いの言葉



### 《ワークセミナー: 多賀城市立多賀城中学校》

「総合的な学習の時間」での体験学習と関連させ、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度の育成を3年間を通して系統的に行っています。特にワークセミナーでは、50名近くの方々にお願いいただき、3年生は現役高校生や高校の先生から、1・2年生は職業人から高校生活や職業について学び、将来の生き方について考えることができました。

また、外部講師を招いて、「先人に聴く会(1年)」、「フィナンシャルプランナー講話(2年)」、「法律教室(3年)」などを行いました。

### 外部講師によるワークセミナー





### III 大崎地区小学校の実践事例・IV 大崎地区中学校の実践事例

★ 教科・領域・その他の教育活動にかかわる実践事例、校内研修の実践事例、学校だより・学校要覧の参考事例を紹介しています。(小学校17事例・中学校10事例)

#### 実践名：町となかよし

教科 生活科(2年)

- ◎ 実施期日(期間) 平成23年6月6日(月)
- ◎ 志教育にかかわるねらい(かかわる・もどめる・はたす)
  - ・ 地域の人たちと積極的にかかわりを深め、地域への愛着を深める。(かかわる)
  - ・ 地域の良さを見つけ、工夫して伝え合う。(はたす)
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 町の良い場所、人、自然等を教え合い、自分たちの町への関心を高める。
  - ・ 自分の家の付近の施設や自然で知らせたいことを発表し合う。
- 2 行ってみたい場所について話し合い、グループごとに役割分担をする。
  - ・ 春探しで通学路を歩いたことを思い起こさせるとともに、町内の施設の資料を準備しておく。
  - ・ 探検カードを用意する。



町の菓子店の方の説明を聞く様子

- 3 探検する場所を地図で確認し、調べてくることを話し合う。
  - ・ どんなことを調べてくるのか、どのように質問すればよいかを話し合う。
  - ・ 目的場所への行き方を確かめ、お世話してくれる方へのなど、探検の準備や練習を行う。
- 4 約束を守って、楽しく町探検する。
  - ・ 児童数、職員数との関係などから、グループごとの活動しやすい場合は、学級全体で探検する。
- 5 調べてきたことや気付いたことをまとめ、学級の友達、1年町の人などに発表する。
  - ・ グループごとに調べて分かったことや感想を写真とともにとめる。
  - ・ 伝えたい人(1年生や町の人)を招き、発表する。

- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
  - ・ 町の様々な人の取組や努力によって、よりよい暮らしができることに気付かせる。地域の人たちのかかわりの場の設定や振り返りの手法を工夫する。

- ◎ 実践を振り返って
- 成果：駐在所、雑貨店、菓子店、スポーツ公園等へ出かけ、地域の人々から話を聞か、町のことをより理解するきっかけとなった。質問を事前に準備し、練習することで、地域の人々に対し、はっきり質問することができた。
- 課題：引率教員の数などから、安全面を考慮し、学級単位の探検となった。その一人一人の活動の場を確保することが難しく、一部の児童が中心となって地域と触れ合った形になった。7年部の教員や保護者の協力を得ることも考えたい。
- その他：生活科は、特に地域の方々の協力が必要である。今回のように協力が得られ、地域の方々との連携を図っていきたい。

※この実践事例は、加美町立宮崎小学校的取組です。

#### ◎実践事例III・IVの主な内容

- 教科：生活科、図画工作科、社会科、理科、国語科
- 領域：道徳、総合的な学習の時間、学校行事
- その他：朝会・校長先生の話、音楽・総合的な学習の時間の横断的な合唱活動
- ◇志教育の校内研修にかかわる実践事例
- ◇全校的な取組の実践事例

#### ◎紹介の内容

- 実施期日
- 志教育にかかわるねらい
- 具体的な学習・学習の流れ
- 指導のポイントや手立ての工夫
- 実践を振り返っての成果・課題
- その他参考となる事項

#### 実践名：誓人式

領域 総合的な学習の時間(全学年)

- ◎ 実施期日(期間) 平成23年2月5日(土)
- ◎ 志教育にかかわるねらい(かかわる・もどめる・はたす)
  - ・ これまでの人生において支えてくれた人々への「感謝」の気持ちを表現し、機会とする。(かかわる)
  - ・ 「立志式」のイメージで、卒業を控えたこの時期に将来への見通しを立てる(もどめる)
  - ・ これからの人生において、よりどころとなる「誓い」を立て、集団や社会としての自覚を深める機会とする。(かかわる)

- ◎ 具体的な学習・活動の流れ(3時間扱い)

  - 1 卒業に向けて感謝の気持ちを表す場が、2月に設けられていることを確認する。
  - 2 趣旨を踏まえ、誰に伝えるかを各自考える。
  - 3 感謝したい気持ちを作文にする。(原簿用紙1枚)
  - 4 3年生全体で士気を高め、これまで深めてきた総決算として1つの歌を披露することを確認し、決意を固める。
  - 5 全校生徒と3年保護者の前で誓人式を行う。
    - ・ 学級ごとに壇上に上がり、一人一人感謝の気持ちを発表する。
    - ・ 最後に全員が壇上に上がり、卒業式とは違う歌を披露する。
  - 6 誓人式を終えての感想を書き、廊下掲示をして、互いの感想を知り、残り少ない学校生活を充実させようという気持ちを新たにします。

- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
  - ・ 新たに設定した行事なので、自分たちが最初に一歩を踏み出し伝統を作り出していくのだという責任のもとに取り組ませた。(平成23年度は2月下旬に実施予定)

- ◎ 実践を振り返って
- 成果：一昨年度に形を作り、昨年度正式に始めた活動である。卒業を1か月後に控えた慌ただしい時期に、落ち着いて一人一人が気持ちを表現できるか不安であったが、全員がしっかりと暗記し、堂々と発表していた。
- 課題：昨年度は全校生徒に聞かせたが、学年扱いで進めていくが、行事として定着させるか兼ね合いが難しい。また、一人1分で設定していても、発表が長引く生徒もいたので、事前指導をしっかりと行う必要がある。

※この実践事例は、美里町立小田中学校の取組です。

#### 実践名：朝会 校長先生の話

その他の教育活動

- ◎ 実施期日(期間) 平成23年7月4日(月)・9月5日(月)
- ◎ 志教育にかかわるねらい(かかわる・もどめる・はたす)
  - ・ 偉人の逸話を聞くことで、夢を抱いた経緯やその実現に向けて努力を重ねた結果、素晴らしい業績を残したことに気付かせ、夢を持つとどうする気持ちをほぐす。(もどめる)
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ(2時間扱い)

- 1 「いろいろなことに興味を持つ」7月4日(月)
  - (1) タイタニック号の沈没事故を取り上げ、無線を無視したことが沈没の大きな原因の一つであることを知らせ、無線通信の重要性をつかませる。無線通信を考え出した「マルコーニ」について「ヘルツ」の無線実験に興味を持ち、その後研究を続け、大西洋横断の無線通信に成功し、ノーベル賞を受賞したことを知らせる。
  - (2) いろいろなことに興味を持ち、目標として頑張っていくことに意欲を持たせる。
- 2 「志を立てる」ということ9月5日(月)
  - (1) 「目標」と「志」の関係について知らせる。大和ハウス工業会長の夢に向かって頑張ることへのメッセージと孔子のことばを引用し、「志」をかなえるためには、まず、「目の近い目標」から「少し遠い目標」を立てて、一歩一歩着実に取り組むことの大切さをつかませる。
  - (2) 「目標を立てるとやる気が湧き、思わぬ力が出る」ということから、何をすることも「目標や志を立てる」ことが大切であることに気付かせる。
- 3 朝の会
  - ・ 校長の話から、感じたことや思ったこと、これからの生活に生かしていきたいことなどを話し合わせる。

- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
  - ・ 夢を持つとどうする気持ちをほぐすために、お話朝会の後の朝の会を利用して、感想や思いを発表させ、それぞれの考えを交流する場を設ける。

- ◎ 実践を振り返って
- 成果：夢を持つことや目標を持つことが活動の意欲につながるということが分かり、行事における個々の目標がより具体的なものになった。自己の目標を意識し、その達成に向けて、より意欲的に努力する姿が見られるようになった。
- 課題：今後も、時期を変え、夢を持つことや目標を持つことについての理解を深め、内容の講話を考えていかなければならない。教職員の志教育への理解をより深めるための研修や講話も計画していく必要がある。

◎教科・領域の学習だけでなく、学校だより、学校要覧などの志教育にかかわる取組も紹介しています。

#### 色麻町立色麻中学校 学校だより 「いちよう」

平成23年度 12月発行  
色麻町立色麻中学校 学校だより  
いちようの「魂」：魂明：魂きまこ  
「強」：たくましく  
「魂」：まわやかに

今年もあつたことになりました。色麻中学校の2学期は、いよいよ大詰めです。日々の授業への取り組みや学校行事、各種大会等での活躍から、生徒一人一人が充実した日々を送ることができました。また、「学校生活についてのアンケート」からも、「学校生活は楽しい」と感じている生徒が大半であることを確認することができました。この結果は、別紙にてお知らせいたします。

～第38回 立志式～  
12月7日、山口文教師範会館を会場に、2年生の保護者の皆さまをお招きして、伝統ある第38回立志式を行いました。式に先立ち、先「リーダー」で選出されたバスケットボール部メンバーの宮谷和幸氏をお招きし、講演を行いました。宮谷氏は、夢をもつこと、それに向かって行動に移すことを熱く語りました。また、立志の年をむかえた2年生は、自分の決意を表した毛筆の書をもとに、それぞれの夢や希望を堂々と発表しました。どの生徒もどきどき、大きく開けた未来への第一歩をふみ出したものでした。記念会費「大切なもの」も男女のハーモニーが響き合い、会場から盛大な拍手をいただきました。これから色麻を育んでいく2年生の意気込みがしっかりと伝わった立志式でした。(会場模様、月付けにあたってくださった1、3年生、特に先輩のみなさまの姿が印象に残りました。ありがとうございます)

12月8日に第5回漢字マラソンを実施しました。3年生は入試に向けての学習、1、2年生は学期のまとめとなる学習の成果を発揮しました。3年生が、1・2・3年生、さすげです。1年生1組のがんばりが目立ちました。

全員の出席確認から  
○読み「成功の地には、一歩の進歩もない」  
「指さすの癖は、道徳の手続き」  
○書き「バツマンの成績だ」「オモガシの顔」  
「ひもでつなぐ」「ゴウモウ立派」

#### 大崎市立松山小学校

#### 特色ある取組

- 1 授業改善を核とした学力向上の取組【わかる授業の展開と学習習慣の形成】
  - (1) 授業の改善【わかる授業の展開と学習習慣の形成】
    - ① 系統性を大切にたつた授業の展開
    - ② 授業と家庭学習の融合による学習習慣の形成
    - ③ PDCAサイクルを意識した授業改善
    - ④ 指導方法の工夫・改善(習熟度別指導、少人数指導など)
  - (2) 教師の資質や指導力の向上【学び合い、高め合う教師集団】
    - ① 教科や総合的な学習の時間、特別活動の指導力向上のための研修の充実
    - ② 模擬授業やワークショップによる授業研究を取り入れた研修
    - ・ 系統性を大切にたつた授業展開の研修
    - ・ 児童一人一人の実態に即した指導法の研修
    - ・ 探究的な学習や問題解決的な学習の指導法の研修
  - ② 校内研究体制の確立と全教職員の共同研究の推進
- (3) 志教育の充実
  - ① 社会的自立に必要な基礎力(松山小では学力の一つと押さえる)を培う探究的な学習活動を大切にたつた志教育の推進(地域産業の就労体験学習や、地域の伝統文化に自ら探究的にかかわる体験学習、将来の自分の生き方を考える福祉体験学習(道徳)、自らの生き方を意識的に踏まえて志を育てる志教育の推進)
  - ② 地域との協働を大切にたつた志教育の推進(松山地区学校支援地域本部を活用した地域人材、地域資源の積極活用)
  - ③ 計画的、組織的、系統的な指導の推進
- (4) 地域社会との協働の推進【地域とともに歩む学校づくり】
  - ① 家庭、地域の教育力を学校教育に生かす体制整備
  - ② 「松山地区学校支援地域本部」による地域の人材や資源の活用(松山すけと隊、見守り隊 etc.)
- (5) 学校運営・教育活動に関する積極的な情報発信
  - ① 学校だより、各種たつたの配布・HPの開設
  - ② 児童の地域活動の充実
  - ③ 地区の清掃活動、地区まつり等
  - ④ 地域の方々の来校会の拡充
  - ⑤ 地域への授業公開(授業は原則随時公開)
  - ⑥ 運動会・学芸会等の学校行事 等
  - ⑦ 家庭・地域と協働した志教育の充実
  - ⑧ 松山地区学校支援地域本部の積極的な活用
  - ⑨ 学校評議員制度の活用
  - ⑩ 学校評価の実施と結果公表
- 3 豊かな人間性や社会性を培う教育
  - (1) 道徳教育の充実
    - ① 道徳の授業の充実(心のノートや社会人講話活用など)
    - ② 全教育活動の中での道徳教育の推進
  - (2) 学習習慣の定着を目指した生徒指導の充実
    - ① 松山小の合言葉「いんじ あいさつ くつなぐ」
    - ② 生活リズムの定着「はやね はやおき あさごはん」
  - (3) 将来の自分の生き方を考える福祉体験学習
    - ① 福祉について学ぶ「みんなで生きる社会」4年生(社会福祉協議会の支援を受けた地区高齢者団体「いきいきクラブ」との交流学習、車イスや福祉体験などのワークショップ)体験学習、日本盲導犬協会協力を得た「盲導犬ふれあい」体験学習

- ◎ 学校要覧の特徴
  - ・ 特色ある取組の中に、「志教育の充実」が掲げられているが、別に項立てをし、「社会的自立に必要な基礎能力を培う志教育の推進」が示されている。その中で、特に「社会と協働した体験学習」を取り上げ、就労体験学習・地域の伝統文化に自ら探究的にかかわる体験学習・福祉体験学習を重視している。

#### ◎「志教育実践事集」で取組を紹介した学校一覧(小学校18校・中学校12校)

大崎市立西大崎小学校	大崎市立川渡小学校	大崎市立長岡小学校	大崎市立志田小学校	大崎市立古川第五小学校	大崎市立富永小学校	大崎市立松山小学校
大崎市立鬼首小学校	大崎市立高倉小学校	美里町立青生小学校	美里町立中坪小学校	美里町立不動堂小学校	涌谷町立麓岳小学校	涌谷町立涌谷第一小学校
加美町立賀美石小学校	加美町立宮崎小学校	加美町立旭小学校	色麻町立色麻小学校			
大崎市立古川中学校	大崎市立鳴子中学校	大崎市立鹿島台中学校	大崎市立三本木中学校	大崎市立古川北中学校	大崎市立松山中学校	涌谷町立麓岳中学校
涌谷町立涌谷中学校	色麻町立色麻中学校	加美町立小野田中学校	美里町立南郷中学校	美里町立小牛田中学校		(順不同)

## 平成23年度 北部教育事務所栗原地域事務所管内「志教育」の取組

平成23年12月16日（金）若柳地区志教育小中高交流・発表会が若柳総合文化センター「ドリームパル」で行われました。ドリーム（Dream）は「夢」つまり将来への「志」、パル（Pal）は「友人、仲間」という意味からも、この会場でみんなが集い、行うにふさわしい会となりました。当地域は、宮城県教育委員会から志教育支援事業の指定を受けており、平成24年2月22日（水）には「事例発表会」もドリームパルで午後2時より開催します。



開会の挨拶を行う、志教育支援事業推進地区連絡協議会副会長、若柳中学校の佐藤泰博教頭先生です。  
「みなさんの夢はなんですか。」

この交流・発表会は二部構成で行われました。第一部は「各校の志教育への取組」として、若柳地区の5つの小学校、中学校、高等学校、計7校の代表者がそれぞれステージで発表を行いました。第二部は「広がる夢、夢をつなげて」と題したシンポジウムです。

### 【参加校】

栗原市立大目小学校・畑岡小学校  
大岡小学校・若柳小学校  
有賀小学校  
栗原市立若柳中学校  
宮城県迫桜高等学校



第一部の総合司会を担当してくれた迫桜高校2年の高橋ゆいさん。将来の目標は「アナウンサー」。第二部のシンポジウムでのパネリストも担当してくれました。

### 【第一部「各校の志教育への取組」】



大目小は「大目夏祭りに参加して」という題で発表してくれました。大目小は学校再編により、長き学校の歴史に幕を閉じます。学校がなくなっても大目に残せるものは何かを伝えてくれました。それが「人とかかわり」でした。

畑岡小は「あたたかく大きく育て 夢ゆめの木」と題し、全校児童の夢を掲示した「夢ゆめの木」や、地域、先輩の方々の夢へ向かう努力を聞く「夢朝会」の実践を行いました。「夢朝会」を聞いて心に残った思いと高齢者とのかわりを大切にしたい福祉活動から学んだことを、自分たちの言葉で紹介してくれました。



有賀小は地域と共に歩んできた志教育を発表してくれました。「ようこそ先輩」で地域の方々からたくさんのお話を学ばせてもらったこと、児童全員でつくった縦割りカレンダーをお礼に送ったことなどを紹介してくれました。



大岡小は総合的な学習の時間における体験活動「鐘の音タイム」を発表してくれました。地域の方々に教わった「米づくり」「ニコニコショップ」での販売の仕方、「くりでん」の元職員の方をゲストティーチャーに招いてのお話の様子を紹介してくれました。



若柳小は「遊ベランド」という縦割り活動を発表してくれました。運動・遊び・清掃をとおして下級生とのかかわりからの学びを紹介してくれました。





若柳中学校はキャリアスタートウィークでの「職場体験活動」を発表してくれました。33事業所に分かれ、この3日間の体験で、挨拶やマナー、積極的に人とかかわる大切さを伝えてくれました。



迫桜高校からは3名の発表が行われました。「夢を実現させるために」「My Life Plan」「I want to be a sport trainer」という題で、夢をもつこととその実現のために努力すること、学校での学習の意義や体験、人のために仕事をする事、そして「志のスイッチ」を自分で入れることの重要性を伝えてくれました。

【第二部「シンポジウム～広がる夢、夢をつなげて～」】

皆さんの将来の夢は何ですか？ 将来のことを考えるとわくわくしませんか？  
夢はいつも同じだっていいし、少しずつ変わったっていい。  
夢に向かって努力し始めるとき、あなたは輝き始めることでしょう。（「交流・発表会」より）



（右から順に）

迫桜高1年 渋谷 直樹君  
若柳中2年 鎌田 拓弥君  
若柳小6年 本間 颯起君

渋谷君はスポーツトレーナーになるのが夢、鎌田君はプログラマーを目指しており、本間君は寿司職人になるのが夢だそうです。渋谷君と鎌田君は将来に向けての準備をすでに始めており、本間君は家で料理の手伝いをしているそうです。希望を胸に夢に向かって走り出しています。素敵ですね。

若柳中PTA2学年委員長 加藤 雅恵様



迫桜高校2年 高橋 ゆいさん

ゆいさんは将来 FM 放送局のアナウンサーを志望し、勉強中。昨年は英語のスピーチコンテストで全国大会に出場しました。

大人代表として加藤さんからは「仕事は人のため。その労力の対価として報酬はある。将来の仕事に誇りと責任を持って。」とお話がありました。現役の美容師さんです。仕事は全て人との関わりともお話しされました。



当日は来賓の方々をはじめ、多くの保護者の皆様、地域の方々、各校の児童生徒のみなさんにおいで頂きました。  
ありがとうございました。



閉会の挨拶を行う、志教育支援事業推進地区連絡協議会会長、大目小学校の松尾隆治校長先生です。  
「夢を広げ、夢をつなげて、志を高めて」とお話しされました。



コーディネーターの加藤純一先生（若柳中教諭）。軽妙な語り口でパネリストの本音を引き出していました。

「みやぎの志教育」3つの視点  
○人と『かかわる』  
○よりよい生き方を『もとめる』  
○社会での役割を『はたす』  
（宮城県教育振興基本計画から）

県教委指定志教育支援事業「事例発表会」は平成24年2月22日（水）午後2時よりドリームパルで開催します。

平成23年度

## 東部管内石巻地区の志教育の取組

### I はじめに

今回の大震災で、当事務所管内では人的にも物的にも極めて甚大な被害を受けた。しかし、震災後新緑を迎える頃には、大地から芽を出すたくましい雑草のように、地域と学校が共に手を携えて各小・中学校で様々な取組が始まった。逆境にめげず、未来に向けて新たな一歩を踏み出した子どもたちの姿が生き生きと描かれた一端をここに紹介する。

### II 管内の志教育の特色ある実践例

#### 伝統芸能「かさまつ太鼓」を活用した取組

石巻市立前谷地小学校

本校には「かさまつ太鼓」と呼ばれている伝統芸能の活動があり、志教育の目標、特に重点事項の中の「もとめる」「はたす」に関連する体験活動として位置付けている。「かさまつ太鼓」は、学校行事や総合的な学習の時間の中で5・6年生が中心となって取り組み、地域の龍ノ口神社例祭への参加、運動会での太鼓演奏を主な活動としている。2月のこの時期、6年生が培ってきた太鼓の技能を4・5年生に継承するために、地域の方にも指導をいただきながら練習会を実施している。身が引き締まるような体育館の寒さの中で無心に太鼓を打ちこむ子どもたちの姿を見ることができ

る。本校では、この体験活動を通し、子どもたちが「かさまつ太鼓」の伝統を引き継ぎ、下級生に伝えるという自分たちの役割を自覚するとともに、その責任を果たす喜びや充実感を味わうことができたらと考えている。また、1年生から3年生の子どもたちについても、「上級生のように上手に太鼓をたたいてみたい」「もう少ししたら、自分たちが活躍する番だ」などの思いをもち、心の中で夢や目標をふくらませることを期待している。

今後も地域と連携しながら「かさまつ太鼓」の活動を大切にし、これからの社会を力強く生き抜いていく基盤なるものを子どもたちの中に育てていきたいと思う。

龍ノ口神社例祭



運動会



#### 学校行事を活用した実践例

石巻市立和瀨小学校

平成23年10月28日、児童に夢をもつことの大切さやその人の生き方・考え方に触れさせたいと考え、現在楽天ジュニアコーチの中濱裕之さんによる「楽天未来塾」を開催した。参加学年は4～6年生の47名。まずどの児童も中濱さんの体の大きさやバッティングのすごさに驚かされ、本物は違うことを実感したようである。そして、中濱さんが野球選手を目指し、夢を叶えるために努力してきたこと等について小学校時代から現在に至るまで、さらに今でも夢を持ち続けている話を聞き、夢の実現には本人の努力だけでなく、人とかかわりや自分の役割を果たすことの大切さも学ぶことができたようである。夢をもつことのできなかつた児童の心に一筋の光がさしたのではないかと思う。今後も志教育の「かかわる」「もとめる」「はたす」の3視点を教育活動の中にしつかりと位置付け、よりよい生き方を探究できる児童の育成に向けて実践していきたい。



## 小中連携を中心とした取組（女川一中，女川二中主催『立志の会』への参加をとおして）

女川町立女川第二小学校

これまで、女川第二小学校では、近隣の女川第一中学校との交流が盛んに行われていた。各校の指導主事学校訪問指導時や女川町教育研究会における授業参観を行ったり、中学校の職場体験学習の受け入れを行ったりしてきた。また、特別支援学級対象児童の学校訪問等も随時行ってきた。

本年度は、新たに、女川第一中学校及び女川第二中学校の『立志の会』に、町内の小学6年生が参加する機会を提供していただいた。女川町出身者で構成されている『女川に元気を送る会（代表：村井善郎氏）』の和田京子氏はじめ3名の方々から、中学校時代の志や思いについてご講話をいただいた。

事後指導として、学んだことを振り返らせた。児童の感想から「・・・自分の志をあきらめないで、最後には目標を実現できたこと・・・」、「・・・何歳になっても、『もう』できないのではなく、『まだ』できるという言葉が印象に残りました。」という中学校生活に向けての指針を得ていたことが明らかになった。



## キャリア教育との関連を図った一取組

石巻市立石巻中学校

石巻中学校では、生徒に夢や志を抱かせる契機として啓発的な体験学習を大切にしている。その体験学習の一つとして、毎年教育講演会を行っている。石巻中学校を卒業し、社会で活躍されている方からの講話を通して、生徒に自分の「生き方」や将来に対する「展望」を考えさせる契機とすることをねらいとしている。今年度は前半、体育館で基調講演として、東部金属熱処理工業組合技術顧問の鈴木健司氏に講話をいただいた。後半は教室で、9分科会に分かれ、地元石巻の産業界で活躍されているの方々にお話をいただいた。

本校の卒業生、そして人生の先輩からいただく話は大変興味深く、生徒たちが今後の自分の生き方や将来について考えを形成する上で、とても参考になった。自分の親や教員以外の大人とかかわり、様々な考え方を聞き自分に生かすという経験は、中学生のこの時期とても有意義であったと考える。これは、志教育の視点である「かかわる」「もとめる」に通ずるものであり、今後も継続して実践していく計画である。



## 各分野で活躍している方々や企業、大学との連携による取組

石巻市立雄勝中学校

震災の甚大な被害により、前年度まで実施していた地域内での職場体験は不可能になった。本校では生徒たちに自己の生き方を見つめ、将来への希望と夢を抱かせるとともに、現況に屈せず、力強く生きていく志を育むため下記の取組みを展開した。

### 1 各分野で活躍している方々による出前授業

藤原和博氏、林真理子氏、三枝成彰氏、勝間和代氏、茂木健一郎氏、日野皓正氏、立花貴氏、山本圭一氏等から「考えたことは口にする」「なりたい自分になるには紙に書いて貼り、意識化す

る。具体的に何をするか考える」など生徒たちの人生の指針となる講演を実施した。

## 2 東京での職場研修と京都での進路学習

1 学年はNHKでテレビ局の様々な仕事を体験し、2 学年は資生堂で商品販売のためのキャッチコピーを考える仕事を体験した。京都では、京大博物館にて、学ぶことの意義について講話を聞いた。

## 3 雄勝・絆と創造の教育フォーラムの実施

「学校教育と企業・大学の関係を考えるー雄勝の『志教育』について語ろうー」と題して、職場研修をした企業と3 年生が修学旅行でお世話いただいた京都大学博物館の准教授及びキャリアコーディネーターと生徒の代表がパネラーとなり、フォーラムを実施した。パネルディスカッションのあと、生徒会から今後の雄勝の復興に向けて、輪太鼓の演奏とともに地域の特産物を自分たちの手で販売していきたいと提言した。

< 出前授業の様子 >

< 資生堂にて 販売戦略会議 キャッチコピーを考える >



< NHKにて カメラワークの体験 >

< 教育フォーラムの様子 >



## 思いをめぐらせる造形活動や思いを醸成する親子創作活動を通じた取組

東松島市立宮戸小学校

本校のめざす学校像の一つに、「志を持ち、生き生きと楽しく学べる学校」がある。本校の志教育の具体的な目標は「夢や希望を持ち、友達と語り合い、自主的・主体的に行動する児童を育成する」である。

今年度は震災の影響を受け、児童、教師、保護者、地域一丸となって夢と希望、志を持って復興を目指すために、「宮戸復興プロジェクトC (チルドレン)」を立ち上げた。具体的には、10 年後の宮戸島について、思いをめぐらせる造形活動や思いを醸成する親子創作活動を行い「震災を乗り越え、夢や希望を持って生きようとする児童の育成」を目指した。実践活動に際しては、朝の業前活動を活用しながら、教師の専門性を生かした交換授業を取り入れ、全担任で指導を行う体制を取った。

一人一人が描いた絵を、児童自身で似た風景ごとにグループを作って話し合い、ベニヤ板4枚分の壁面にした。大きな壁画をつくっていく活動は、児童が出来る宮戸島復興の活動そのものであった。

児童の感想に「未来に向かって頑張ろうという気持ちになりました。」「宮戸小全員の気持ちが一つになりました。」という言葉が多くあった。家族や地域の方からは「元気をもらった」などという声が多数聞こえてきている。

10 年後、児童の夢や希望が高い「志」となって実を結び、震災前以上の宮戸島を作り出す原動力になっていることを教職員一同願っている。



平成23年度

## 東部教育事務所登米地域事務所管内の志教育の取組

### I はじめに

「志教育」については、登米市内の各小・中学校でも既に志教育全体計画が作成され、志教育担当教諭を中心に学校独自の活動に取り組んでいました。子どもたちは、地域の人々や震災に遭われた方々、幼稚園児などさまざまな人達とかかわりを持ちながら、よりよい生き方について考えたり、社会で果たす役割を考えたりするなど、各学校の教育効果をあげています。

なお、登米地区内全部の小・中学校の「志教育」の取組については、東部教育事務所登米地域事務所のホームページに掲載してあります。

### II 管内の志教育の特色ある実践例



JA青年部の方に土づくりや代かき、苗の植え方の説明を受け、一人一人、バケツに田植えを行いました。JA青年部の方々は、時々「バケツ稲」の生育の様子を見に来てくださり、子どもたちは、「バケツにはった藻を取り除くように」などたくさんのアドバイスをいただきました。

(北方小学校)



毎年10月に北上川の土手を清掃する「クリーン作戦」を実施しています。縦割り班で活動し、6年生が下学年をリードします。

今年度は、台風により、北上川が増水した後でしたので、例年よりごみがたくさんありました。ボランティア活動を体験することにより、地域社会とかかわる喜びや楽しさを実感することができました。

(柳津小学校)



学校行事に位置付け、毎年全校体制で参加しています。

1年生は、起業学習に向けて、先輩の様子や他の販売店の調査活動を行いました。

2年生は起業学習における販売の場として、3年生は学習活動の発表の場として参加します。

吹奏楽部もステージでの演奏を行い、祭り全体を盛り上げます。

(東和中学校)



森林組合の方から、昨年ドングリを植えた山に案内していただき、10cm位に生長したドングリの木の芽の様子を観察しました。子どもたちは、生長の様子を見て喜んでいました。

しかし、一方では2年たってもこれくらいしか生長していない様子を見て、木を植え、育てることの難しさを感じていたようです。

(米川小学校)



家庭科の保育教育のまとめとして、幼稚園での実習を行いました。幼児の心理や行動についての基本的な知識について学習した後、職業体験・子育ての疑似体験をしました。

生徒は、4～6人のグループで、1時間程の計画を立て、当日は自分たちで手作りの遊具を持ち、幼稚園に向いました。最初はお互いに緊張していましたが、次第に慣れ、背中に乗ってきたり、抱きついてきたりと、短い時間ではありましたが、幼児とたくさんのコミュニケーションを取ることができました。最後には、涙を流す園児もいました。

(津山中学校)



小学校5・6年生が収穫した米は、南三陸町中瀬地区の仮設住宅の皆様、豊里を拠点にしたボランティア団体「め組JAPAN」様に支援物資として届けました。中学生が育てたキャベツはボランティア団体「歌津RQ」の皆様、歌津の朝市で活用していただきました。

(豊里小・中学校)



先輩方の夢を抱いた経緯や、志を持ち続け努力を重ねてきたことを知ることにより、夢を志に高め、自己実現に向けて努力しようとする気持ちが育ってきました。

身近な先輩の話や聞くことで、より身近なこととして実感するとともに、高校生活への夢や希望を持ち、「今、何を努力すべきか」を自覚することができました。

(南方中学校)

平成23年度

## 南三陸教育事務所管内の志教育の取組

### I はじめに

管内は、東日本大震災により多くの児童生徒が被災し、学校や地域も大きな被害を受けました。学校を取り巻く環境が厳しい中、全ての小・中学校は志教育の趣旨と推進の意義を受け止め、『このような状況だからこそ志教育の推進を！』という思いで、1年間取り組んできました。

多くの特色ある実践が報告されていますが、その中から2校の取組を今回紹介します。

### II 管内の志教育の特色ある実践例

本校の志教育

#### 志教育の具現の一事例＝コラボスクール事業の取組

気仙沼市立白山小学校

#### 1 本校が進める協働教育

白山小学校は、宮城県の最北端に位置する児童数26名の小規模校である。地域の人々は連帯感が強く、学校教育にも協力的である。そこで、平成17年度から、「みやぎらしい協働教育推進事業」としてコラボスクール事業に取り組み、保護者・地域・学校が連携し、組織的・継続的に児童の生きる力を育ててきた。志教育がその後、提唱されたが、その具現に繋がる事業であると手応えを感じている。

#### 2 コラボスクール事業の内容

コラボスクール事業は、授業時間を使って全校で取り組む「白山太鼓の継承と発表（15時間）」と、土曜日に実施する「サタデースクール（年5日）」の2本柱から成り立っている。

白山太鼓の継承は、地域の保存会の方々が中心となって行っている。演奏を完成させるための子どもたちの努力と成長は目を見張るものがある。

もう一つのサタデースクールは保護者や気仙沼在住の方を講師に、ふるさとを知る学習としての「地域探訪（登山・探検）」「天旗作り」、健康な体作りとしての「ニュースポーツ体験」、情操教育としての「コンサートの鑑賞と指揮体験」などを実施している。児童は様々な特技をもった人々と関わり合いながら、郷土の誇りや社会性を学んでいる。

#### 3 志教育の視点からの見直し

本校のコラボスクール事業を志教育の3つの視点で見直すと、人と「かかわる」と、社会での役割を「はたす」の一事例ではないかと考える。しかし、よりよい生き方を「もとめる」という視点は弱い。この視点は教科・領域等でも取り扱っているが、今後、本事業でも様々な職業の内容と社会に果たす役割についての学びを深める機会を設けたい。志教育の目標である将来の生き方を主体的に追求できる素地を育てたい。



【白山太鼓の発表】



【地域探訪（登山）】



【気仙沼伝統の天旗作り】

本校の志教育

## 支援の方々とのかわりを通して、夢を志に高めることを目指した取組

南三陸町立志津川中学校

### 1 はじめに

3.11の東日本大震災により町並みは破壊され、半数の生徒の自宅が流失した。しかし、このようなときだからこそ、生徒たちには夢や希望をもたせ、それを志に高める教育が必要であると考え、具体策を模索していた。南三陸町には、震災直後から多くの方々を訪れ、本校にも駐在して支援活動をしてくださる方がおり、生徒は日常的にその仕事ぶりを見ることができたそのような方々と触れ合い、直接お話をうかがうことは、この町の将来を担う生徒たちにとって大変意義深いものであると考え、本取組を企画し、実践した。

### 2 活動の概要

#### (1) 実践例1 学校の敷地内で働く方々へのインタビュー活動 (H23.4.21)

① 対象職業 NHK職員、群馬県医療団の方々、自衛隊隊員、東京都庁職員

② 主な活動内容

ア 4グループに分かれて、質問内容の検討  
その職業を選んだ理由、社会での役割、生きがい、中学生に伝えたいことなどを質問内容とした。

イ グループごとのインタビュー活動

教室に来ていただいたり、活動場所（移動中継車や作業用テントなど）を訪れたりしてインタビュー活動を行った。

ウ まとめと発信

体験したことや学んだことを掲示資料としてまとめ、全体で共有した。

#### (2) 実践例2 生き方を学ぶ講話・講演会

神奈川県警警部補による講話 (H23.10.24)

① 内容

震災で信号機が流失した学校下の交差点で、生徒の登下校の安全を確保していただいていた神奈川県警特別交通派遣部隊野田繁夫警部補をお招きし、警察官の仕事を紹介していただくとともに、自身が警察官を目指したきっかけや自分の仕事に対する誇りと使命感、感謝されることへの喜びなどをお話いただいた。

② 生徒へのメッセージ

「皆さんがこの町の復興の担い手となるのだと思うと、頼もしくもあり、期待するところもたくさんあります。そのためには、勉強や部活動に励んで自分の力を高めるとともに将来のよりよい生き方につながる仲間づくりや夢に向かって努力する姿勢をもってほしいと思います。」というメッセージをいただいた。



【都庁の職員にインタビュー】

### 3 おわりに

今回インタビュー活動をさせていただいた団体は、震災がなければおそらく接する機会がない方々ばかりだった。震災を体験したことにより、職員も生徒も多くの人たちとつながっていることに気付かされた。人とのつながり(絆)、働くことの意義などを生徒たちは少しずつ学んでいくものと思う。また、上記のインタビュー活動や講話のほかに、以下の方々それぞれ1回ずつお話をいただいた。

(1) スポーツトレーナー 西田文雄氏 (H23.5.20)

(2) 日米教育委員会事務局長 サターホワイト氏 (H23.5.24) (3度の来校)

(3) チリ共和国駐日大使 パトリシア・トーレス氏 (H23.6.1) (4度の来校)

(4) 兵庫県消防士 竹中邦明氏 (H23.9.16) (阪神・淡路大震災を体験した消防士)

(5) スポーツドクター 辻秀一氏 (H23.11.15) (病院に勤務しない医師)

いずれも、それぞれの立場から未来を担う子どもたちへの熱いメッセージをいただいた。中学時代に夢をもたせ、夢をはぐくみ、それを志に高めること(志教育)を本校の全ての教育活動を統括する理念としている。震災前の生活とは大きく異なってしまったが、少しずつではあるが確実に学校生活を送っている。10年後、20年後の社会を支える今の生徒たちの健やかな成長と一日も早い南三陸町の復興・再生を実現するために、夢をはぐくみ志に高めるための取組を進めていきたい。